



JFEスチールにおける 公害防止への取り組み

2007年10月29日

JFEスチール株式会社

環境管理部 澤田寿郎

本日の報告内容

1. JFEスチールの概要
2. 東日本製鉄所(千葉地区)環境問題の概要
3. 東日本製鉄所における取り組み
4. 全社における取り組み
5. 業界としての取り組み事例

J F E スチールの概要



創 立：2003年4月、旧川崎製鉄と旧日本鋼管が統合
2006年度グループ粗鋼生産量：32.8百万トン(世界第3位)

環境理念

JFEグループは、地球環境の向上を経営の重要課題と位置付け、環境と調和した事業活動を推進することにより、豊かな社会づくりをめざします。



JFEグループの環境方針



1. すべての
事業活動
における
環境負荷低減

2. 技術、製品
による貢献

3. 省資源、
省エネルギー
事業による貢献

4. 社会との
コミュニケーション
の促進

5. 国際協力の
推進

JFEグループの環境報告



環境への取り組み

Environmental Activities

➤ 環境への取り組み

更新情報

- JFEグループ環境報告2007<PDF版>を更新しました。(2007.06.27)

お知らせ

- JFEスチール東日本製鉄所<千葉地区>の環境問題についての公表資料はこちらでご覧いただけます。
■ JFEスチールの該当ページへ

環境理念・環境方針	環境コミュニケーション	環境保全技術の研究開発
鉄鋼事業における地球温暖化対策	生物多様性への貢献	環境報告<PDF版>
環境経営体制	環境に貢献するエンジニアリング技術・商品	
ISO14001 取得状況	鉄鋼技術・商品による貢献	JFEグループ環境報告2007 についてのご意見・ご感想を お寄せ下さい。
事業活動にともなう環境負荷低減活動	リサイクル事業	JFEの環境ソリューション JFEビルディング

経営レポート(冊子)
 経済・社会・環境の各側面
 について総合的に報告

環境報告(WEB)
 環境への取り組みに関して、より詳細に報告
<http://www.jfe-holdings.co.jp/environment/index.html>

東日本製鉄所(千葉地区)環境問題の概要



時期	概要
2004年12月	弊社千葉地区護岸より高アルカリ水流出の疑いで海保の強制捜査を受ける
2005年1月	上記捜査を契機に所内の全ての環境データを自主点検した結果、 水質測定値(*) について、 虚偽の報告書を行政に提出 していたことが判明
2005年2月	上記事実を公表するとともに、全社を挙げて環境保全体制の見直しに着手

(*) 県市との公害防止協定に基づく水処理施設出側での測定値、ならびに水質汚濁防止法に基づく海域への放流口における測定値の基準超過があったにも関わらず、基準値内で報告を行っていた。(内容は、シアン・COD・窒素・リン等の水質基準超過)

千葉地区環境問題の原因・背景



- 1) 所内の水質に関する環境関連業務を担当者一人に任せきりにしていた
- 2) 水質担当者による書き換えの事実を、所幹部はもとより、上司が把握していなかった

原因の背景

所のトップから第一線の作業員まで全員の環境保全に関する認識が欠如していた

現場で起こっている問題が、担当者から上層部に上がらず、また、所幹部も自ら現場の実態を把握する仕組みを作りきれていなかった

組織的な対応と、製造部門による自主活動の展開 【トップのリーダーシップと組織的な取組み】

1. 迅速な情報発信と組織的な取組み

- 1) 休日・夜間を問わず所長まで情報共有化
- 2) 所長・副所長・部長による連日の朝ミーティング

2. 環境管理部門の機能強化

- 1) スタッフ増強および24時間環境パトロール体制の整備
- 2) 操業を停止する権限の付与

3. 各製造部門の機能強化と責任の明確化

環境対応人員増強と、環境負荷低減への自主的な取組み

現場一線作業者までの全員の意識改革

【全員が環境に強い関心を持ち、自主的に取組む仕組み作り】

1. マイ設備活動による環境トラブル未然防止

オペレータ毎に担当設備を決め、設備異常による環境トラブルを未然防止する。

2. 環境教育・研修 (2005年度 計6回実施・約3,000名が受講)

各階層・協力会社社員に繰り返し実施。
環境保全意識・コンプライアンス意識の浸透を図る。

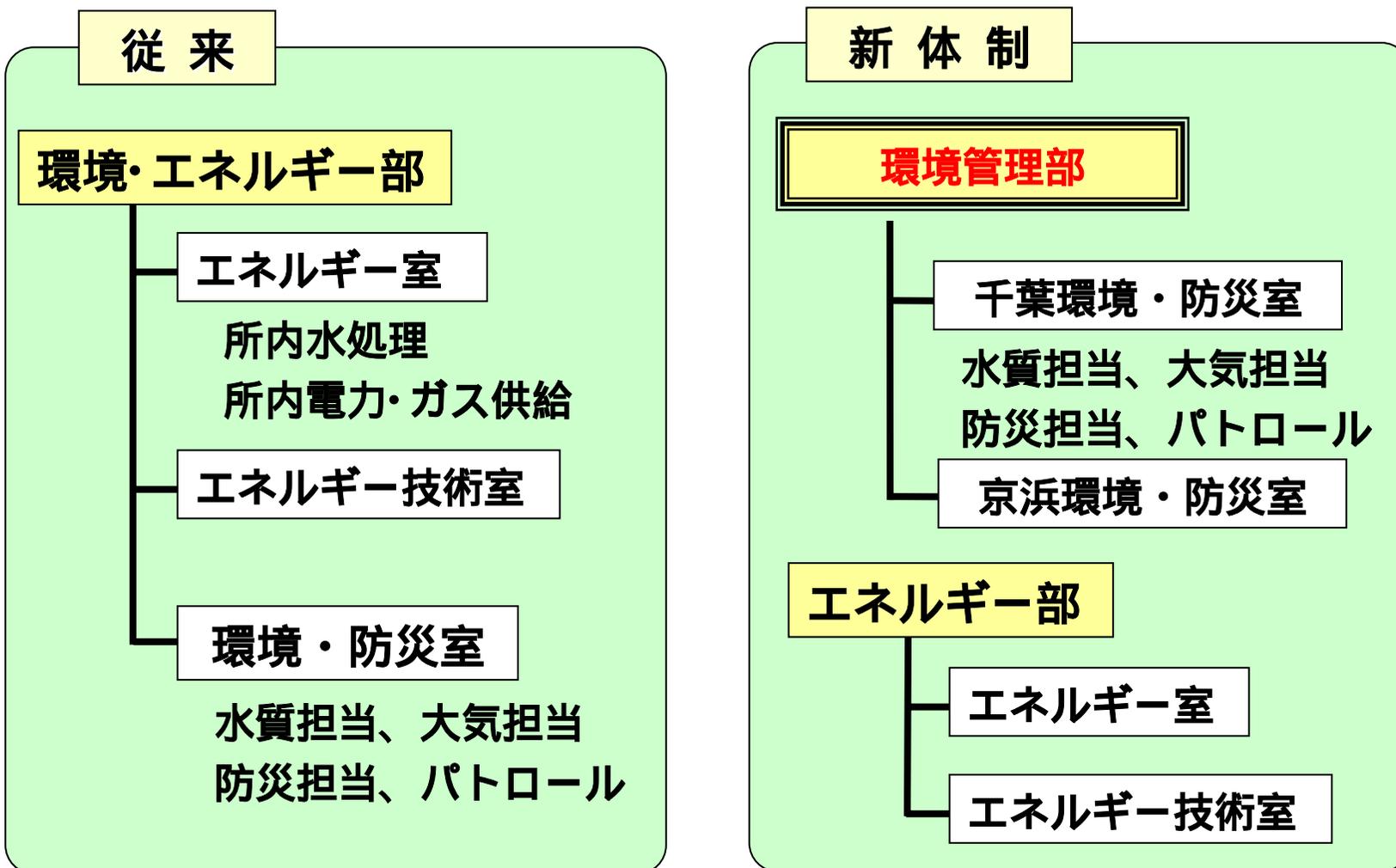
3. 高感度貢献賞(所長賞)導入

環境・防災・安全・品質のトラブル未然防止に寄与した個人(協力会社も含む)を表彰 モチベーションの向上

【取り組み事例】 環境管理部門の強化



環境管理部門を、環境管理部として独立させた



【取り組み事例】 朝ミーティング



毎日、所長・副所長・部長
(約30名)が朝ミーティング実施。

各分野の環境・品質・操業
の状況を報告。

その場で対策を決定、直ちに
全所に展開することで
トラブルの再発を防止。



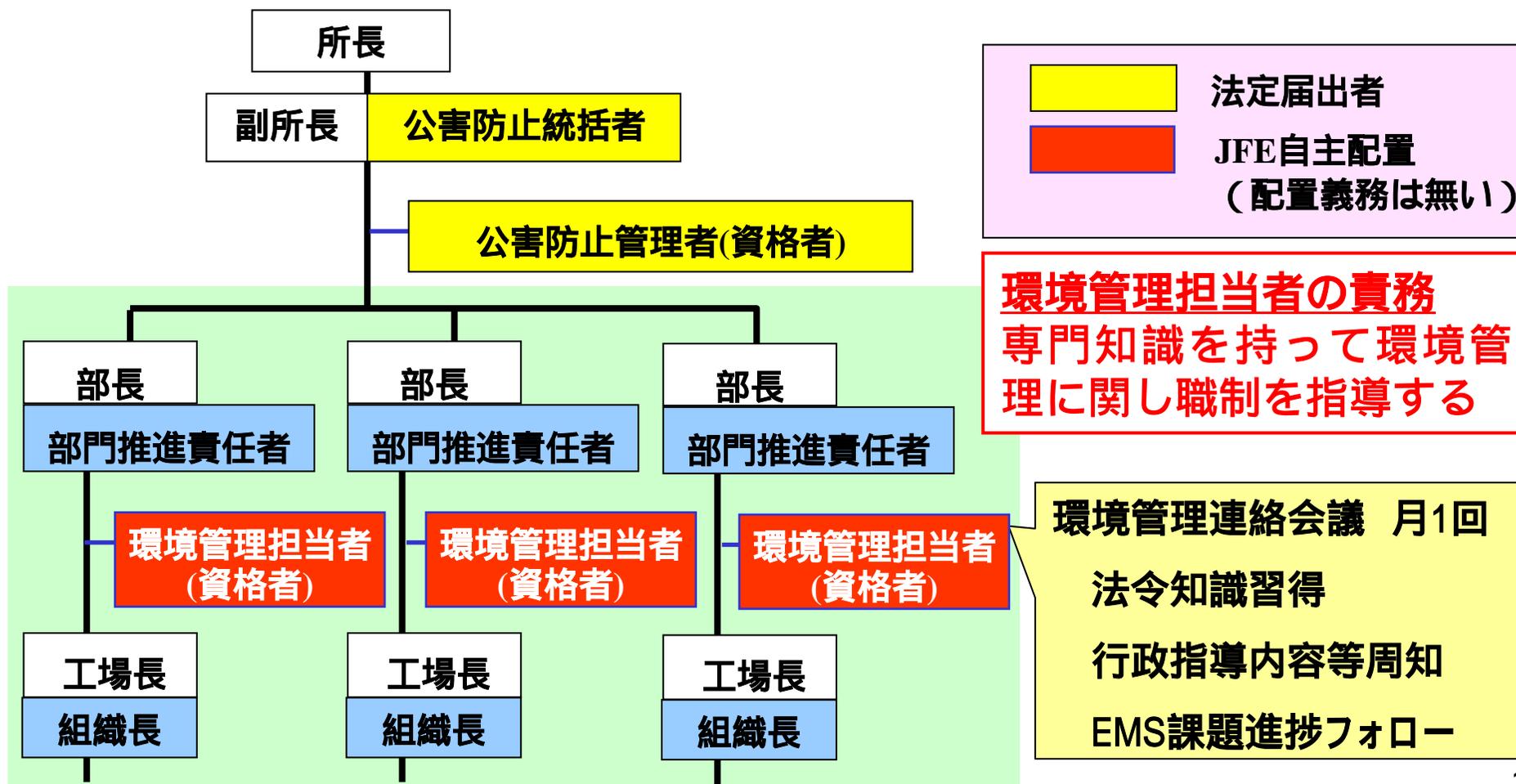
	項目	報告内容
1	環境情報	油一滴の漏洩でも、原因対策を審議し全所展開
2	品質情報	品質トラブル、お客様情報等
3	安全情報	微小な案件まで含めた災害情報
4	操業報告	生産状況、操業トラブル発生状況
5	収益・原価情報	各種変動要因を常時把握し、迅速に対応

【取り組み事例】 各工場の自主管理体制構築



技術系スタッフ全員への**公害防止管理者**(国家資格)試験受験義務化
 千葉地区2005年度 **71名合格**、2006年度 **62名合格**
 平均合格率42%(全国平均 約25%)

全12工場に**環境管理担当者(公害防止管理者有資格者)**を自主的に配置



全社におけるマネジメントの変革 (1/2)



千葉問題を受けて全社の環境管理体制の改革

【環境関連の全社統括部門新設と監査機能の大幅な増

1. **組織の改革 (2005年4月 ~)**
 - 1) 環境管理統括部門の設置
 - 2) 企業の社会的責任 (CSR) 推進母体設置 (CSR室)
2. **環境管理諮問委員会の設置 (2005年5月 ~ 2007年3月)**
社外有識者の意見を環境改善活動に展開
3. **公害防止管理者の受験の義務化**
約1800名のエンジニア全員に受験を義務付け
合格者数 : 2005年度 206名、2006年度 264名
有資格者数 : 878名 (2006年度末時点、のべ数)

全社におけるマネジメントの変革 (2/2)



千葉問題を受けて全社の環境管理体制の改革 【環境関連の全社統括部門新設と監査機能の大幅な増

4.環境監査機能の大幅な増強

- 1)本社監査部による環境監査(2005年4月～)
環境専門監査員を配置し、グループ会社を含め定期実施
- 2)事業所間での相互環境診断(2005年10月～)
- 3)監査役による環境監査

情報公開への取り組み



東日本製鉄所(千葉地区)での取り組み

1. ホームページでの情報公開

月々の大気・水質の環境データをホームページにて開示

2. 地域住民の方を対象にした説明会

近隣26町内会長及び希望者を対象とした説明会・現地視察
定期1回/年、その他必要の都度開催

3. 広く一般の方を対象にした環境問題説明会(2006年6月)

地域の住民代表・市議会・行政の方を対象とした説明会
(ホームページにて公募)

4. 環境異常抑止システムによる環境情報公開(2007年3月より開始)

大気・水質モニタリングデータのリアルタイム公開
環境活動の紹介

全社での取り組み

環境報告の発行

経営レポート(冊子)及び環境報告(WEB)にて、環境への取り組み状況や関連データを開示。2005、2006年版では千葉環境問題について特集的に報告。

ホームページでの情報公開



社外の皆様にホームページにて環境関係の情報を開示

HOME	会社概要	ニュースリリース	製品情報	研究・技術開発	環境への取り組み	採用情報
------	------	----------	------	---------	----------	------

JFEスチール 東日本製鉄所 千葉地区



お知らせ
当地区の環境問題に関する公表資料は「千葉地区の環境問題について」をご覧ください

東日本製鉄所千葉地区は、戦後初めて建設された鉄鋼一貫製鉄所です。

東日本製鉄所(千葉地区)は、首都圏をひかえた京葉工業地域に、戦後、わが国で初めて建設された鉄鋼一貫の臨海製鉄所です。広さは東京ドームのおよそ176倍、約832万㎡というビッグスケールです。1991年、鉄鋼製品の高級化やニーズの多様化に応えるために、リフレッシュ工事をスタート。2,600億円の設備投資と4年の歳月を投入して、95年、徹底した省資源と省力化を実現した「21世紀の都市型製鉄所」として生まれ変わりました。西工場に新設した熱間圧延工場は、ホットストリップミルの歴史を変える革新的な技術「エンドレス圧延プロセス」を実機化しました。また、第4製鋼工場では、これまでのステンレス精錬の常識を超える熔融還元法を



東日本製鉄所(西宮工場)
東日本製鉄所(西宮工場)は、ステンレス製品の製造工場として、千葉地区から素材を運搬し、高級

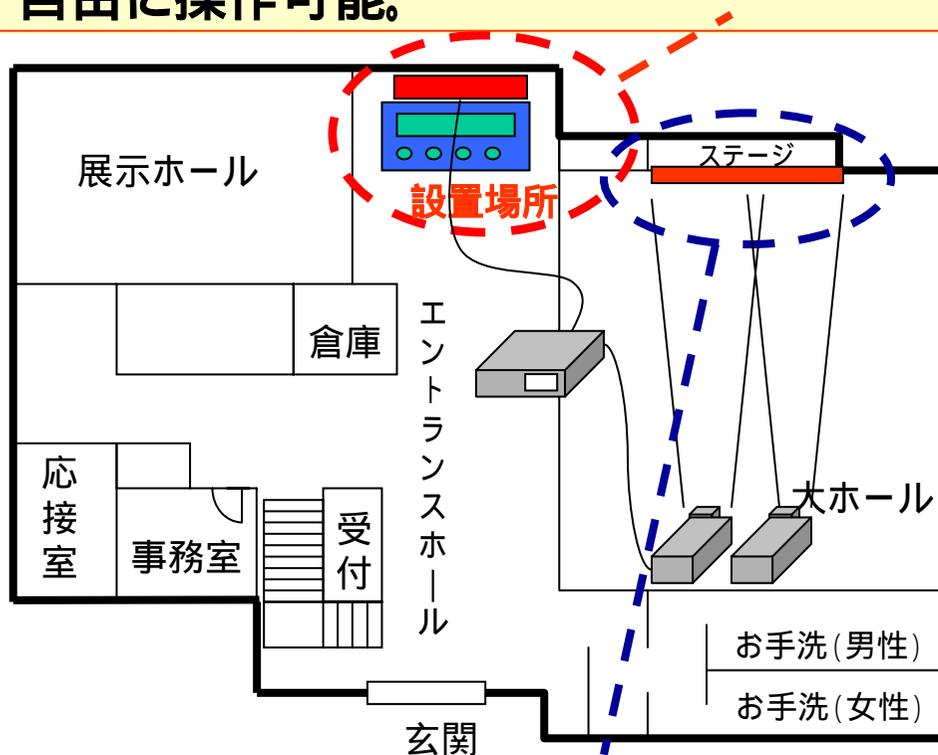
- 東日本製鉄所
- 千葉地区
 - アクセスマップ
 - 製造工程・製品紹介
 - 沿革
 - 地域との共生
 - 環境への取り組み
 - 千葉地区の環境問題について
- 京浜地区
- 採用情報
- JFE東日本硬式野球部

<http://www.jfe-steel.co.jp/works/east/chiba/index.html>

環境情報公開モニターでの情報公開

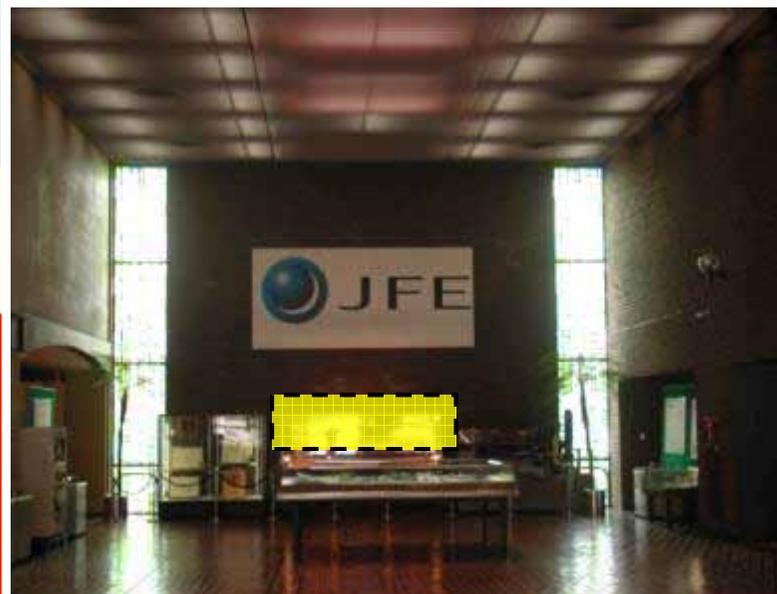
千葉地区見学センターに、4 × 1.5m
(8画面構成)モニターを設置

8分割画面は、個々の画面を、手前座席より
自由に操作可能。



大ホールのプロジェクターに接続

大勢の来客の皆様への説明用。



業界(日本鉄鋼連盟)としての取り組み事例



1. 事案の情報共有ならびに再発防止

事案の報告

各社で環境事案発生時、連盟へ報告
会員メーカーへ周知、再発防止に活用

情報交流

「環境交流会」を開催し、各社取り組み
について情報交換



環境交流会(2007年3月)の様様

2. 環境法令への的確な対応の推進

連盟の関連委員会で、法の制定、改正情報入手し、適宜会員各社へ伝達
することにより、法改正情報を周知徹底。

3. 環境関連情報サイトの活用

環境関連情報を掲載した会員サイトを開設し、効率的に情報共有を行い、
会員各社での情報活用の利便性を向上。

以上

ご清聴ありがとうございました